

# I 学校の所在地

岐阜県恵那市明智町41番地2

〒509-7793

TEL (0573) 54-2537・3447

FAX (0573) 54-4652

## II 沿革

### 1 恵那南高等学校沿革

平成19年 4月 1日 「生徒いきいきプラン」により、県立明智商業高等学校、岩村高等学校が統合し恵那南高等学校となる。旧明智商業高等学校は恵那南高等学校明智校舎、旧岩村高等学校は同岩村校舎と名称を改める。旧岩村高等学校長塚本渉平は多治見高等学校長に転任し、旧明智商業高等学校長渡辺守夫が初代恵那南高等学校校長に、旧岩村高等学校教頭鈴木康博が副校長にそれぞれ着任する。総合学科定員160名（4学級）となる。

平成19年 4月 8日 明智かえでホールにて県立恵那南高等学校開校式が挙行される。

平成20年 3月11日 総合学科棟が完成し、引き渡される。

平成20年 4月 1日 校長渡辺守夫は退職し、県立土岐紅陵高等学校教頭橋本義治が校長に着任する。

平成21年 3月31日 岩村校舎が閉校舎となる。

平成21年 4月 1日 総合学科定員120名（3学級）となる。

平成22年 2月26日 恵那南高等学校校歌（作詞作曲：後藤健二、編曲：大沼智幸）を制定し、校歌発表会を行う。

平成22年 3月 1日 総合学科第1期生が卒業する。

平成23年 4月 1日 校長橋本義治は定年退職し、県立恵那南高等学校教頭大嶽和好が校長に着任する。

平成25年 4月 1日 校長大嶽和好は県立多治見高等学校長に転任し、県立中津高等学校副校長谷口陽一郎が校長に着任する。

平成27年 4月 1日 校長谷口陽一郎は県立恵那高等学校長に転任し、県立岐山高等学校教頭高谷信吾が校長に着任する。

平成29年 4月 1日 校長高谷信吾は県立各務原高等学校長に転任し、県立瑞浪高等学校教頭林尚志が校長に着任する。総合学科定員80名（2学級）となる。

平成29年 5月27日 創立10周年記念式典を挙行する。

### 2 統合以前の沿革

#### (1) 旧明智商業高等学校沿革

昭和23年 7月23日 組合立恵南高等学校定時制課程の設立を許可される。  
仮校舎を明智小学校におき同日開校する。

昭和23年 8月 1日 岐阜県公立中学校校長加藤亮一学校事務取扱を命ぜられる。

昭和24年 1月16日 岐阜県公立中学校校長加藤亮一学校長に兼補される。

昭和24年12月10日 新校舎竣工・移転。

昭和25年 4月 1日 岐阜県恵那郡明智町立恵南高等学校と改称する。  
通常課程普通科の設置を許可される。

昭和25年 4月25日 校舎落成式を挙行する。

昭和26年 4月 1日 岐阜県立に移管され、岐阜県立恵南高等学校と称する。  
加藤亮一学校長に着任する。

昭和28年 4月 1日 校長加藤亮一は県立中津高等学校に転任し、高山市第一中学校長青

			木敏郎学校長に着任する。
昭和32年	4月	1日	校名を明智高等学校と改称する。
昭和32年	6月	1日	講堂竣工落成式挙行並びに校歌制定発表する。
昭和32年	10月	11日	校長青木敏郎は県立武義高等学校長に転任し、県立岐阜高等学校教諭杉野武雄学校長に着任する。
昭和33年	4月	1日	通常課程商業科が設置される。 木造平屋建396㎡及び寄宿寮を県へ移管される。
昭和33年	10月	3日	創立10周年記念式典を挙げる。
昭和34年	4月	1日	通常課程普通科は家庭を主とする課程となる。
昭和35年	4月	1日	通常課程普通科は女子のみとする課程となる。
昭和36年	4月	1日	校長杉野武雄は県立益田高等学校長に転任し、県立坂下高等学校長伊藤琢郎校長に着任する。
昭和37年	4月	1日	校長伊藤琢郎は県立華陽高等学校長に転任し、県立大垣北高等学校教頭戸谷総一郎学校長に着任する。
昭和38年	5月	20日	理科校舎竣工式。
昭和40年	4月	1日	校長戸谷総一郎は県立揖斐高等学校長に転任し、県立岐阜北高等学校教頭関屋健太郎学校長に着任する。
昭和41年	4月	1日	校長関屋健太郎は県立土岐商業高等学校長に転任し、県立岐阜女子商業高等学校教頭砂田俊彦学校長に着任する。
昭和42年	4月	1日	普通科生徒の募集を停止し、商業科のみとなる。
昭和43年	4月	1日	校名を岐阜県立明智商業高等学校と改称。
昭和44年	2月	2日	体育館竣工 創立20周年記念式典を挙げる。
昭和44年	4月	1日	校長砂田俊彦は岐阜市立岐阜商業高等学校長に転任し、県立揖斐高等学校教頭木島徳次郎学校長に着任する。
昭和44年	4月	15日	商業科校舎一部竣工。
昭和45年	3月	31日	寄宿舎廃止。
昭和45年	4月	1日	事務科が設置される。
昭和47年	2月	25日	本校舎一部竣工。
昭和47年	4月	1日	校長木島徳次郎は県立養老女子商業高等学校長に転任し、県立高山高等学校教頭松田光雄学校長に着任する。
昭和48年	2月	15日	本館校舎竣工。
昭和48年	3月	23日	校舎竣工式を挙げる。
昭和49年	4月	1日	校長松田光雄は県立中津高等学校長に転任し、県立岐阜商業高等学校教頭加藤鉄男学校長に着任する。
昭和51年	4月	1日	校長加藤鉄男は県立岐阜女子商業高等学校長に転任し、県立多治見北高等学校副校長瀬瀬直祐学校長に着任する。
昭和54年	4月	1日	校長瀬瀬直祐は県立土岐商業高等学校長に転任し、県立長良高等学校教頭宮部健治学校長に着任する。
昭和54年	11月	11日	創立30周年記念式典を挙げる。
昭和56年	3月	19日	校舎増築竣工。
昭和56年	3月	23日	校舎増築竣工式を挙げる。
昭和56年	4月	1日	校長宮部健治は県立武義高等学校長に転任し、県立本巣高等学校教頭飯尾誠太郎が校長に着任する。
昭和59年	4月	1日	校長飯尾誠太郎は県立本巣高等学校長に転任し、県立郡上高等学校副校長若尾昇が校長に着任する。
昭和61年	4月	1日	校長若尾昇は退職し、岐阜県教育委員会教職員長補佐大宮義章が校

				長に着任する。
平成	元年	4月	1日	校長大宮義章は岐阜県教育委員会教職員課長に転任し、県立中津商業高等学校教頭堀井高文が校長に着任する。
平成	2年	3月	27日	格技場竣工。
平成	2年	4月	15日	格技場竣工式を挙げる。
平成	3年	4月	1日	校長堀井高文は県立中津商業高等学校長に転任し、岐阜県教育委員会教職員課総括課長補佐服部晃が校長に着任する。
平成	3年	4月	1日	事務科の募集を停止し情報会計科が設置される。
平成	5年	4月	1日	校長服部晃は県立可児高等学校長に転任し、県立海津北高等学校教頭梅村明彦が校長に着任する。
平成	7年	3月	10日	プール竣工。
平成	8年	4月	1日	校長梅村明彦は県立揖斐高等学校長に転任し、岐阜県博物館学芸部長石井新太郎が校長に着任する。
平成	10年	11月	29日	新体育館竣工。創立50周年記念式典を挙げる。
平成	11年	4月	1日	校長石井新太郎は県立恵那高等学校長に転任し、岐阜県教育委員会学校指導課総括課長補佐高屋一行が校長に着任する。
平成	13年	4月	1日	校長高屋一行は県立揖斐高等学校長に転任し、県立岐山高等学校教頭村瀬洋三が校長に着任する。
平成	15年	3月	31日	校長村瀬洋三退職する。
平成	15年	4月	1日	県立大垣商業高等学校教頭三嶋明美が校長に着任する。
平成	18年	4月	1日	校長三嶋明美は県立大垣商業高等学校長に転任し、県立岐阜各務野高等学校副校長渡辺守夫が校長に着任する。
平成	19年	4月	1日	「生徒いきいきプラン」により、県立明智商業高等学校、岩村高等学校が統合し恵那南高等学校となる。旧明智商業高等学校は恵那南高等学校明智校舎と名称を改める。

## (2) 旧岩村高等学校沿革

昭和	2年	3月	31日	岐阜県恵南実科女学校として設立を認可される。(岩村町他4ヶ村の組合立)梅沢英造が校長に就任する。
昭和	3年	4月	5日	校長梅沢英造は退職、野村志ようが校長に就任する。
昭和	4年	4月	1日	校長野村志ようは退職、浅野とくが校長に就任する。
昭和	4年	11月	20日	増築校舎竣工。
昭和	14年	4月	10日	本科定員200名に認可される。
昭和	15年	9月	6日	増築校舎竣工。
昭和	17年	4月	1日	県立に移管を認可される。定員350名に増員を認可される。岐阜県立岩村高等実科女学校と改称する。
昭和	19年	3月	31日	校長浅野とくは退職し、宇田川岩次郎が校長に就任する。
昭和	22年	5月	3日	学制改革により岐阜県岩村高等実科女学校併設中学校を設置する。
昭和	23年	4月	1日	学制改革により岐阜県岩村高等学校に移行、全日制普通科を置く。
昭和	23年	8月	10日	岐阜県立岩村高等学校と改称する。
昭和	23年	8月	18日	校長宇田川岩次郎は退職し、岐阜県立高山女子高等学校長樋田善一が校長に就任する。
昭和	24年	3月	31日	岐阜県岩村高等実科女学校併設中学校を廃止する。
昭和	24年	4月	1日	全日制農業科・定時制普通科(夜間部)を設置する。学校統合により男女共学となり、男子生徒182名、女子生徒273名、計455名となる。

昭和25年	4月	1日	増築校舎竣工、農業科校舎竣工、男子生徒245名、女子生徒286名、計531名となる。
昭和26年	4月	1日	定時制普通科（昼間部）を設置する。男子271名、女子268名、計539名となる。
昭和27年	1月	1日	運動場拡張（4250㎡）13985㎡となる。
昭和27年	4月	1日	校長樋田善一は退職し、岐阜県立羽島高等学校長青山健吉が校長に就任する。全日制商業科設置、男子生徒245名、女子生徒299名、計544名となる。
昭和27年	8月	1日	プール完成。
昭和29年	4月	23日	農業科実習地として水田13010㎡、畑508㎡、果樹園2975㎡、計16493㎡を購入する。
昭和30年	4月	1日	体育館竣工（475㎡）。
昭和30年	6月	1日	旧講堂を商業科実践教室および家庭科教室に改造。
昭和31年	5月	1日	農業科生徒宿泊施設を建設する。
昭和31年	12月	7日	小学区制が廃止され全県2学区制が採用される。
昭和32年	4月	1日	校長青山健吉は岐阜県立八百津高等学校長となり、岐阜県立岐阜高等学校教頭中島常雄が校長に就任する。
昭和33年	3月	31日	全日制商業科・定時制普通科（夜間部）募集を停止する。全日制普通科30名・定時制普通科（昼間部）30名を増加募集する。
昭和34年	4月	1日	校長中島常雄は組合立大垣東高等学校長となり、岐阜県立揖斐高等学校長田村幸次郎が校長に就任する。
昭和34年	11月	16日	北校舎老朽のため鉄筋コンクリート3階建新校舎に改築する第1期工事に着工する。
昭和35年	4月	1日	定時制普通科（昼間部）の募集を停止し、生活科40名を募集する。
昭和35年	6月	6日	北校舎改築の第1期工事が竣工する。
昭和35年	8月	1日	北校舎改築の第2期工事に着工する。
昭和36年	3月	13日	北校舎改築の第2期工事が竣工し、北校舎が完成する。
昭和36年	4月	1日	定時制生活科の募集定員を30名に変更する。校長田村幸次郎は岐阜県立大垣農業高等学校長となり、学校組合立高田高等学校長各務隆が校長に就任する。
昭和36年	5月	11日	新校舎完成。
昭和38年	4月	1日	普通科定員200名・農業科定員40名にそれぞれ増員し、定時制生活科の募集を停止する。定時制生活科を家政科と改称。
昭和38年	5月	20日	中央昇降口・前庭造園の工事が竣工する。
昭和39年	4月	1日	校長各務隆は岐阜県立武義高等学校長となり、岐阜県立大垣商業高等学校教頭服部和司が校長に就任する。
昭和40年	10月	3日	本校創立40周年記念として同窓会館が完成。本校創立40周年記念碑（中庭）を建立。
昭和40年	11月	12日	本校創立40周年記念式典を挙げる。
昭和41年	4月	1日	校長服部和司は岐阜県立海津高等学校長となり、岐阜県立揖斐高等学校教頭渡辺佐一が校長に就任する。農業科の募集を停止する。
昭和41年	5月	25日	礼法室を復元、宿直室を改造、相談室を設置する。
昭和42年	8月	10日	校務員室を改造する。
昭和43年	2月	5日	町道（北舎前）の付け替え工事に着工する。
昭和43年	6月	11日	町道（北舎前）の付け替え工事が竣工する。
昭和44年	4月	1日	校長渡辺佐一は岐阜県立瑞浪高等学校長となり、岐阜県教育委員会

			学校指導課主任主査幸脇多聞が校長に就任する。
昭和45年	2月10日		分根農場を岩村町へ、旧岩村小学校敷地を岐阜県へ無償交換する。
昭和45年	2月13日		体育館（1189㎡）が竣工する。
昭和45年	2月20日		旧体育館を講堂に改装する。
昭和45年	2月22日		体育館の竣工式を挙げる。
昭和46年	4月1日		校長幸脇多聞は岐阜県教育委員会社会教育課長となり、岐阜県立古城高等学校教頭細江泰幸が校長に就任する。
昭和46年	7月27日		南校舎老朽のため鉄筋コンクリート4階建校舎に改築する第1期工事に着工する。
昭和47年	7月31日		南校舎の第1期工事が竣工する。
昭和48年	4月1日		校長細江泰幸は岐阜県立各務原高等学校長となり、岐阜県立岐阜高等学校通信制主事横山寛吾が校長に就任する。
昭和49年	4月1日		普通科定員225名（5学級）となる。
昭和49年	7月20日		南校舎改築の第2期工事に着工する。
昭和50年	3月26日		南校舎改築の第2期工事が竣工する。
昭和50年	7月26日		増築工事に着工する。
昭和51年	4月1日		校長横山寛吾は岐阜県立武義高等学校長となり、岐阜県立大垣北高等学校教頭高橋猷夫が校長に就任する。
昭和51年	5月6日		増築工事が竣工する。
昭和52年	10月23日		本校創立50周年記念式典ならびに竣工式を挙げる。
昭和54年	4月1日		校長高橋猷夫は岐阜県立揖斐高等学校長となり、岐阜県立不破高等学校教頭松岡節夫が校長に就任する。
昭和56年	4月1日		校長松岡節夫は岐阜県立東濃実業高等学校長となり、岐阜県立大垣東高等学校教頭森晃が校長に就任する。普通科定員180名（4学級）となる。
昭和58年	3月1日		測量標柱を中庭に建立。
昭和58年	4月1日		普通科定員225名（5学級）となる。
昭和59年	1月26日		校内の知新館遺構を郷土館前へ移転する工事が竣工する。
昭和59年	4月1日		校長森晃は岐阜県立池田高等学校長となり、岐阜県立恵那高等学校教頭水野恭平が校長に就任する。
昭和62年	4月1日		校長水野恭平は定年退職し、岐阜県立可児高等学校教頭伊藤郁雄が校長に就任する。
昭和62年	7月16日		格技場工事に着工する。
昭和63年	1月30日		格技場が竣工、本校創立60周年記念式典を挙げる。
昭和63年	4月1日		普通科定員230名（5学級）となる。
平成元年	3月31日		パソコン専用教室を設置する。
平成元年	4月1日		普通科定員282名（6学級）となる。
平成2年	4月1日		校長伊藤郁雄は岐阜県立中津高等学校長となり、岐阜県立土岐商業高等学校長市岡訓平が校長に就任する。普通科定員230名（5学級）となる。
平成3年	4月1日		普通科定員225名（5学級）となる。
平成4年	2月19日		全館の水道配管改修工事が竣工する。
平成4年	3月31日		町道の付け替え工事によりテニスコートを改修する。ワープロ専用教室を設置する。
平成5年	4月1日		校長市岡訓平は定年退職し、関市立関商工高等学校副校長森田豊が校長に就任する。普通科定員215名（5学級）となる。

- 平成 5年10月26日 屋上防水改修工事が竣工する。
- 平成 6年 3月17日 自転車置場増設工事が竣工する。
- 平成 6年 3月29日 家庭科教室（調理室）の改修工事が竣工する。
- 平成 7年 4月 1日 校長森田豊は関市立関商工高等学校長となり、岐阜県立斐太農林高等学校長河合哲心が校長に就任する。普通科定員200名（5学級）となる。
- 平成 8年 4月 1日 PC・WP教室北校舎に移転。新機種のパソコン42台配置。普通科定員160名（4学級）となる。
- 平成 8年12月 9日 新体育館起工式を挙げる。
- 平成 9年 4月 1日 校長河合哲心は岐阜県立瑞浪高等学校長となり、中津川市立阿木高等学校教頭萱野重智が校長に就任する。
- 平成10年 2月 3日 新体育館竣工する。
- 平成10年 2月19日 講堂解体終了、跡地はグラウンドの一部となる。
- 平成10年 4月 1日 普通科定員120名（3学級）となる。
- 平成10年 4月27日 同窓会館（知新會館）の起工式を挙げる。
- 平成10年10月31日 同窓会館（知新會館）が完成する。
- 平成10年11月15日 創立70周年記念式典を挙げる。同窓会館（知新會館）竣工式を挙げる。
- 平成11年 1月20日 同窓会館（知新會館）同窓会より岐阜県へ寄付採納。
- 平成12年 4月 1日 校長萱野重智は定年退職し、岐阜県立中津高等学校教頭伊藤克己が校長に就任する。
- 平成13年 3月27日 PC教室のパソコン42台、新機種に更新。PC教室内LAN整備。
- 平成13年 4月24日 校内LAN整備工事に着工する。
- 平成15年 4月 1日 校長伊藤克己は定年退職し、岐阜県立岐山高等学校教頭小林達夫が校長に就任する。普通科定員80名（2学級）となる。
- 平成15年12月19日 弓道場補修工事が竣工する。
- 平成16年11月 2日 本館棟耐震補強工事が竣工する。
- 平成18年 4月 1日 校長小林達夫は定年退職し、岐阜県飛騨地域福祉事務所長塚本渉平が校長に就任する。普通科定員40名（2学級）となる。
- 平成19年 2月10日 創立80周年記念事業【全校生徒の合唱による岩村高校校歌のCD制作、スピードスケート元オリンピック代表選手堀井学氏による講演、部活動栄光の足跡を刻む顕彰碑「岐阜県立岩村高等学校部活動栄光の足跡」（知新會館横）の建立】を挙げる。
- 平成19年 4月 1日 「生徒いきいきプラン」により、県立明智商業高等学校、岩村高等学校が統合し恵那南高等学校となる。旧岩村高等学校は恵那南高等学校岩村校舎と名称を改める。
- 平成21年 3月 1日 岐阜県立恵那南高等学校岩村校舎閉校舎式が挙げるされる。